



### マーヴィーラン 伝説の勇者

インド映画で、こんなに気弱な主人公は珍しい。漫画家のサティヤ（シヴァカールティケーヤン）が、突然自分だけに聞こえるようになった声に従い、悪徳政治家に立ち向かう。漫画のナレーションのような声に振り回される様子がシュールだ。新感覚だが、歌やダンス、熱いバトル、政治風刺などインド映画らしさもたっぷり楽しめる。マドーン・アシュヴィン監督。新宿ピカデリーなど。公開中。（石）



### 「桐島です」

1970年代に起きた連続企業爆破事件で指名手配され、2024年に死亡した男の逃亡生活を基にした劇映画。常に弱者を思いやった桐島（毎熊克哉）は、劇中、歌われる「時代おくれ」のように、目立たないように生きた。高橋伴明監督は男の日常を青春映画のように見せ、さすがにうまい。とはいえ、主人公は重大な犯罪を犯した男。優しく純粋であることを強調しすぎているか。新宿武蔵野館など。公開中。（近）

読売新聞オンラインにも映画評を掲載しています。恩田泰子編集委員がセレクトした、いま見てほしい一本を紹介いたします。



# All That Cinema

どつぱんを楽しませるキラキラターも登場し、期待を裏切らない。つい新しさに目が行くが、スーパーマンは、常に弱者の味方であることだけは、今も昔も変わらない。だからこそヒーローなのだ、今のアメリカを見てみると、それすら誰かに対する皮肉を感じずにはいられない。なお、本作にはサブタイトルがない。この姿をスタンダードにしたいという作り手の意志が伝わってくる。2時間9分。有楽町・丸の内ピカデリーなど。公開中。（浅川貴道）

## ストレンジ・ダーリン (米)

### 時系列交錯 巧妙ス



6章仕立ての物語だが、なぜか第3章から始まる。シリアルキラー（連続殺人犯）が出てくるが、映像は色彩のコントラストが鮮やかで、目に楽しい。常識や無意識下のイメージを次々と裏切っていくスリラー映画。少しでも興味をひかれたら、事前情報をなるべく聞かずに早めに見に行って、今作の醍醐味を味わってほしい。連続殺人事件が全米を恐怖に陥れる中、とあるモーターの前に、出会ったばかりの男女を乗せた車が止まる。女（ウィラ・フィッツ

間、女が突然男に尋ねる。「あなたは何者ですか？」  
第1章はこうして始まるのだが、章の上映順がシャッフルされているため、映画のどこでこのシーンが出てくるかはお楽しみ。男女の一夜の火遊びは緊迫感たっぷりの追走劇に発展する。時系列順には語られないが、章ごとに、それまでに生じた謎や疑問が解ける快感がちゃんとある。それでいて核心に向かっただんどん盛り上がりつついくのだから、脚本も務めたJT・モルナー監督のストーリーテリングは巧妙と言うほかない。もう一つ素晴らしいのが、斬新な仕掛けを完璧に成立させてなお、しっかりと感情に訴えかけてくる物語でもあることだ。特に終盤、どんどん追い詰められていく女の表情は、彼女の背景にあるたくさんのものを想像させ、少し切ない。1時間37分。新宿バルト9など。公開中。（石塚恵理）

### この夏の星を見る



新型コロナウイルスで部活を制限された中高生の群像劇。茨城の高校生・亜紗（桜田ひより）らが、リモート会議を通じて全国各地から同時に天体観測し、特定の星をい

ち早く見つける「タッチ」に挑む。辻名小説が原作。コソ生まれた青春元環監督が描いたなスクリーンで。五島列島の星空はバルト9など。公開

やさしい笑顔

# 黄楊彫り

地蔵様は身近な仏様で、と地蔵、身代わり地蔵、水子地蔵、さまざま呼び名で親しまれました。このお地蔵様は合掌微笑む小坊主をモデルに高級楊を用いて製作された逸品で、人をも笑顔にさせる愛ら地蔵様で、たくさんの福を呼んでください。専用台座と香炉、お届けします。